

人が天に届く方法。

読響
YOMIKYO
Yrs. 1962-2022

BRAHMS Ein Deutsches Requiem

ダニエル・シュニーダー：聖ヨハネの黙示録(日本初演) DANIEL SCHNYDER: The Revelation of St. John (Japan Premiere)

ブラームス：ドイツ・レクイエム 作品45 BRAHMS: Ein Deutsches Requiem, op. 45

指揮=セバスティアン・ヴァイグレ(常任指揮者) Conductor= SEBASTIAN WEIGLE (Principal Conductor)

ソプラノ=ファン・スミ Soprano= SUMI HWANG

バリトン=大西宇宙 Baritone= TAKAOKI ONISHI

合唱=新国立劇場合唱団(合唱指揮=富平恭平) Chorus= New National Theatre Chorus (Chorusmaster= KYOHEI TOMIHIRA)

※当初の発表から、出演者が一部変更になりました。

読売日本交響楽団 第621回 定期演奏会 Yomiuri Nippon Symphony Orchestra Subscription Concert No. 621

2022年9月20日(火) 19:00 サントリーホール Tuesday, 20 September 2022, 19:00 / Suntory Hall

S ¥9,700 A ¥7,600 B SOLD OUT C SOLD OUT

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文部科学省 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
助成：公益財団法人アフィニス文化財団
助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団
助成：公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団
助成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
協力：アフラック生命保険株式会社

BRAHMS Ein Deutsches Requiem

鎮魂歌。

それは、生きるものの慰めと喜び。
ブラームスが生きた傑作に、
ヴァイグレが熱い思いを込める。

音楽は、人間のあらゆる営みに寄り添ってきた。「レクイエム」とは、死者のためのミサ曲、鎮魂曲。古くからラテン語の祈禱文に作曲されていたが、ブラームスはルター訳のドイツ語の聖書などに基づき、自ら選んだテキストを歌詞とし「ドイツ・レクイエム」を書いた。広く市民のために捧げられたのも特徴だ。

ブラームスは交響曲だけでなく、多くの歌曲や声楽作品を遺している。合唱と管弦楽による最高傑作とされるのが「ドイツ・レクイエム」だ。ブラームスが10年以上を掛けて完成させた全7曲、70分もの大作である。

読響では、2005年に当時の常任指揮者ゲルト・アルブレヒトの指揮で演奏して以来、実に17年ぶりに演奏することになる。ドイツ語によるオペラ作品や声楽作品を得意とする常任指揮者セバステアン・ヴァイグレは、読響との4シーズン目に、満を持してこの重要作を選んだ。

作曲の経緯は、ロベルト・シューマンの死やブラームスの母の死が影響していると言われているが、その音楽はシュッツやJ.S.バッハからのドイツの合唱

曲の系譜を継ぐような伝統を持ちつつ、今にも普遍性を感じさせるメッセージを持つものだ。オーケストラの豊潤な響きに大編成の合唱が加わり、温かな音色で力強く、生きる苦しみ、慰め、喜びなどが表されている。ヴァイグレの柔らかなタクトは、合唱を巧みに操り、教会音楽を思わす柔らかく透明なハーモニーを引き出し、管弦楽との絶妙なバランスで得も言われぬ清らかな空間を作り出すだろう。

前半には、ヴァイグレが過去に欧州で何度か「ドイツ・レクイエム」と共に演奏したというダニエル・シュニーダーの「聖ヨハネの黙示録」を日本初演する。1961年スイス生まれのシュニーダーはジャズ奏者兼作曲家で、室内楽や管弦楽作品も数多く作曲。2001年に世界初演された「聖ヨハネの黙示録」は、ソプラノとバリトン独唱、合唱と大管弦楽のための作品。ジャズ的な要素を交えドラマティックに展開する曲で、歌詞を一部共にしながらも音楽的な趣向の異なるブラームス作品との対比はどんな効果を生むだろうか。二作品の組み合わせにも、ご期待いただきたい。

常任指揮者

セバステアン・ヴァイグレ

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス(影のない女)を振り、雑誌『オーパンヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。同歌劇場は『オーパンヴェルト』の「年間最優秀オーケストラ」や「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響などで活躍している。



ソプラノ
ファン・スミ

ドイツを拠点に欧州で活躍するソプラノの新星。2014年エリザベト王妃国際コンクールで優勝。18年平昌冬季オリンピック開会式でオリンピック賛歌を歌い、世界的な注目を浴びた。エッセンバッハ、シュテンツ、オラモら名匠の指揮でドレスデン国立歌劇場管、SWR響、BBC響などと共演。オペラでは、ボン市立劇場、ハノーファー歌劇場、ヴィースバーデンのヘッセン州立歌劇場、ジュネーヴ大劇場などで活躍している。昨年はヴァイグレ指揮コペンハーゲン・フィルとR.シュトラウス「4つの最後の歌」を歌い、好評を博した。



バリトン
大西 宇宙

欧米の歌劇場や音楽祭で活躍を重ね、注目を集める若きバリトン。ジュリアード音楽院の大学院に学び、リチャ・アルバーネーゼ・ブッチーニ国際声楽コンクールなどで優勝。シカゴ・リリック・オペラの所属歌手として多数の演目に出演し、ドミンゴヤルネ・フレミングらと舞台を共にした。2019年セイジ・オザワ松本フェスティバルにて「エフゲニー・オネーギン」タイトルロールで日本オペラデビュー。今年4月にはヒューストン・グランド・オペラにデビューし成功を取めた。ウィーン響、ニュルンベルク響などと共演。アスペン音楽祭やヴェルビエ音楽祭などに出演。

合唱

新国立劇場合唱団 (合唱指揮=富平恭平)

新国立劇場で行われる数多くのオペラ公演の核を担うプロ合唱団として活動を展開し、高い評価を得ている。2007年以降、読響の「第九」公演に毎年出演するほか、カンブルラン指揮のメシアン「アッジの聖フランチェスコ」(17年)、シェーンベルク「グレの歌」(19年)、テミルカーノフ指揮のショスタコヴィチ「バビ・ヤール」(19年)などでも共演し、好評を博した。

読響日本交響楽団 第621回 定期演奏会

2022年 9月20日(火) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥9,700 / A ¥7,600 / B ~~¥5,500~~ SOLD OUT / C ~~¥3,500~~ SOLD OUT

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyoku.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyoku.or.jp/>